

町の NEWS

わだしい

身近な情報をお寄せください

総務課行政係 内線213・214

✉gyousei@town.kanra.lg.jp

詩に思いをのせて ふるさとコンサート



第29回甘楽町ふるさとコンサートが2月24日、町文化会館で開かれました。

町内小中学生を対象とした童謡作詩コンクールに543点の応募があり、入賞作品の発表と表彰式が行われました。入選した4人の作品には、かぶらマンドリンクラブ、さくらコーラス、コールオリーブ、グリーンホーンズオーケストラの4団体が曲をつけて発表し、各団体の演奏や合唱も披露されました。

入選した飯塚美月さんは「支えてくれる家族のことを思って作った。入選してうれしい」と話してくれました。

また、特別演奏として、県民が安心して生活できるようメロディパトロールをしている群馬県警察音楽隊のコンサートがありました。来館者は、美しく迫力ある演奏とカラーガードの華麗なフラッグ演技に魅了されました。



入選者の皆さん。左から熊井戸さん、飯塚さん、西有くん、森田さん

◎童謡作詩コンクール入賞者(敬称略・学年は30年度)

入選

「うさぎのおつかい」	森田なの	小幡小1年
「お空の顔」	西有優惺	小幡小5年
「私の家族」	飯塚美月	甘楽中1年
「ともだち」	熊井戸美佑	甘楽中1年

佳作

「スイカ」	久保ミチル	福島小5年
「本といっしょに」	鈴木涼月	福島小5年
「太鼓」	荒木皐佑	新屋小3年
「動物の言葉」	富田ありす	新屋小5年
「ダイヤモンド」	神戸幸樹	新屋小5年
「たいせつなもの」	小幡みなみ	甘楽中1年
「バレーボール」	篠原歩花	甘楽中1年
「ヒビケ」	中野日花里	甘楽中1年
「海の世界」	松浦 凜	甘楽中1年
「田んぼ道」	武田夏帆	甘楽中2年



入選者は自分の詩がのった歌を舞台上で鑑賞。写真は西有くんとコールオリーブの皆さん

叙位を伝達 故横尾 覺さんへ

長きにわたり甘楽町議会議員を務められ、今年1月に亡くなられた横尾 覺さん(小幡)に叙位が授与され、3月5日に茂原町長が位記を二男の弘さん(右写真)に手渡しました。叙位とは、公共のために特別な功績があった人に対し、死亡後に授与されるものです。

横尾さんは、町議会議員として昭和54年から7期28年在職し、町議会議長、社会常任委員会委員長、富岡地域医療事務組合議会議員などの要職を務められ、町の発展および住民の福祉の向上と地域振興に大いに寄与されました。



田中さんの100歳を慶祝



田中フサさん（大正8年3月24日生まれ・福島）が100歳の誕生日を迎えられ、3月25日に森平副町長が入居先のメリィホームよしい（高崎市）を訪問し、慶祝状と祝金を手渡しました。

田中さんは富岡市のお生まれで、福島に嫁ぎ、2男に恵られました。教員として長年町内の小学校に勤務され、教育活動に励んでこられました。

3年前から同施設に入居し、穏やかな毎日をご過ごされている田中さんに長寿の秘訣を伺うと「好き嫌いなく食べること」と話してくれました。この日は誕生日会が開かれ、家族や施設の利用者、職員などから祝福されました。

家庭の力考える 家庭の日推進大会

第12回かんら家庭の日推進大会（町青少年育成推進員連絡協議会・町教育委員会主催）が3月3日、町文化会館で開かれました。

これは、生活の基盤であり家族の心のよりどころでもある「家庭」の大切さ、「家庭」の役割のすばらしさをあらためて考えようと実施するものです。

大会では、町内小中学生を対象とした「家庭の日」標語・作文コンクールの表彰式が行われました。コンクールには、標語66点、作文32点の応募がありました。

また、アトラクションとして踊らん会エアロビックclubの演技と甘楽中学校吹奏楽部の演奏が披露されたほか、抽選会も行われました。

表彰式に出席した最優秀賞受賞者



谷川くん



中野さん

◎「家庭の日」標語・作文コンクール最優秀賞者（敬称略・学年は30年度）

標語	「大丈夫 勇気をくれる まほうの言葉」	谷川航太	新屋小6年
	「何気ない いつもの日々を大切に」	大河原爽絹	甘楽中1年
作文	「僕の家族のいい所」	下山 空	福島小6年
	「どうせ花農家なんてくだらない」	中野日花里	甘楽中1年

地域に根付いた活動を 更生保護女性会



町更生保護女性会（中野恵理子会長・会員138人）では、2月24日、町文化会館で同会役員が「振り込め詐欺防止」の啓発品を配布し、地域の犯罪防止啓発活動を行いました。また、3月3日には、同会館で「薬物乱用防止」の啓発品配布とともに薬物には絶対に手を染めないようにと訴えました。

同会は、犯罪や非行に陥った人が地域で立ち直るための支援と明るい社会づくりを目指して活動をしているボランティア団体です。活動は年間を通して行われ、社会を明るくする運動への参加協力のほか、更生施設などの訪問やしおり人形の作成、小学生の下校時などの地域見守りパトロール、地区ごとのミニ集会の開催などを行っています。

中野会長は「皆さんの協力に感謝し、会員相互の連携と協力で地域に根付いた活動にしていきたい」と話されました。

→パトロール時に付けるストラップ（写真左）と会員全員で作成する「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！」しおり人形



鉢植えで感じる春の訪れ

季節感あふれる鉢植展示会



甘楽町鉢植クラブ(田中宏一会長・会員38人)の「早春の鉢植展示会」が2月22日から24日まで町文化会館で開かれました。

展示ホールには、梅やオウバイ、サクラなど、28席の席飾りが並び、春の訪れを告げました。

田中会長は「女性会員が増えて、親しみやすい展示が増えてきました。同会館で毎月第2水曜日午後1時30分から研修会を行っていますので、興味のある人はぜひお出かけください」と話されました。

文化の振興を図る 富岡甘楽造形美術作品展

富岡甘楽文化振興協議会(中野薫明会長)主催の第19回富岡甘楽造形美術作品展が3月8日から10日まで町文化会館で開かれました。

富岡市・下仁田町・甘楽町の文化協会会員約200人による俳句や短歌、写真、きり絵、盆栽、ソーブカービングなど208点の作品が会場に並び、日ごろの文化活動の成果が発表されました。

会場を訪れた由田うめさん(上野)は「どれも素晴らしい作品ばかりで、見に来て良かったです」と話されました。



各文化協会を代表する多彩な作品の展示

楽しい雑祭り 読み聞かせおはなし会



子どもも大人も感動の世界が広がる読み聞かせ

甘楽町読み聞かせの会(飯塚あさ子代表・会員8人)は3月2日、ら・ら・かんで「読み聞かせおはなし会」を開き、23人(子ども15人・大人8人)が参加しました。

雑祭りの季節に合わせた本の読み聞かせや紙芝居などが行われ、「うさぎとかめ」の人形劇も披露されました。また、お楽しみ工作ではかわいい雑飾りを作りました。

飯塚代表は「本に親しむ経験を子どもたちができるように、会員が一つになって手作りで頑張っています」と話し、中島那由多くん(かんら保育園)は「いつも楽しみ。今日は工作をお母さんにプレゼントできた」と話してくれました。同会では、季節ごとにイベントを開き、子どもたちの本との触れ合いを推進しています。

心のままにふるさとを描く 丸澤さん



丸澤桂子さん(善慶寺)は、傘寿記念きりえ個展「第5回ふるさとを描く」を3月13日から17日まで町文化会館で開きました。10年ぶりの個展となった今回は、楽山園や雄川、八幡山公園の夕映えのひろばなど、前回の個展以降の作品で日本きりえ美術展に出品した18点とそれ以前の作品の中から思い出の作品22点の合計40点が展示されました。

丸澤さんは「歩いて見つけた感動を心のままに表現した作品には、どれも思い出が詰まっています。夢を持ってこれからも続けていきたいです」と話されました。

また、賛助出品として甘楽きりえの会会員の作品4点も展示されました。

決意を新たに 関口さん

群馬県自衛隊入隊・入校予定者激励会が3月10日、前橋市の昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館)で開かれました。4月から自衛隊に入隊・関連学校に入校する県内在住者、出身者149人が出席し、激励を受けて気持ちを引き締めました。

町からは、関口天哉さん(天引)が航空自衛隊入隊予定者として参加し、任務に向けての決意を新たにしました。関口さんは熊谷基地で3カ月間の教育訓練を受けた後、部隊に配属されます。



左から森平副町長、関口さん、自衛隊高崎地域事務所の渡邊広報官

県大会で健闘！あすなろジュニア・新屋少女バレー



第37回群馬県小学生バレーボール新人大会が2月24日から3月3日までの2日間、浜川体育館(高崎市)ほかで行われ、あすなろジュニア(池田多春監督・左写真)と新屋少女バレー(及川靖雄監督)が出場し、健闘しました。両チームは、1月26日から行われた西毛支部予選を勝ち抜き、県大会での活躍を期待されましたが、あすなろは準々決勝、新屋少女は2回戦敗退でした。

あすなろは前々回大会の準優勝以来の出場で、初優勝を目指していましたが、惜しくも笠懸VBCに敗れました。浅香杏優主将は「優勝を目指していたので、とても悔しいです。次の大会ではこの悔しさを忘れずに頑張ります」と話していました。

思い出の学びやを巣立つ 甘楽中生

在校生と固い握手を交わす卒業生(左)



甘楽中学校の卒業式が3月13日、同校体育館で開かれました。甘楽中が開校した年に入学した第3期生106人の生徒たちは、仲間とともに過ごした3年間の思い出と支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを胸に卒業の時を迎えました。卒業生は、立派な態度で厳粛な式を終えた後、在校生に見送られ、別れを惜しみながら学びやを後にしました。

卒業生の市川日葉里さんは「3年間通った学校を離れるのは寂しいけれど、高校へ行っても頑張ります」と話してくれました。

9年間皆勤おめでとう！

甘楽中学校卒業という旅立ちを前に、卒業生を代表して、小学校・中学校の9年間を通じて皆勤を成し遂げた6人に皆勤の秘訣を聞きました。

- 中野晃希くん「早く寝て、好き嫌いなく食べる」
- 久保田 凜さん「手洗い・うがいを欠かさない」
- 斎藤彩汰くん「規則正しい生活でリズムを整える」
- 堀口花道くん「運動で体を鍛え、食事と睡眠をとる」
- 飯塚日菜乃さん「けがをしないように気をつける」
- 中島茉梨乃さん「食事をきちんと食べて、体調管理に気をつける」

また、中学校3年間の皆勤者は9年間皆勤生徒を含めて41人でした。



後列左から中野くん、斎藤くん、堀口くん、前列左から久保田さん、飯塚さん、中島さん

ソフトテニスで全国へ 三森さん



第30回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会の群馬県選考会(1次～3次)が昨年10月から12月に行われ、三森亜紀さん(甘楽中)が県選抜選手として全国大会(3月26日～28日、三重県伊勢市)への出場を決めました。1月13日にALSOK ぐんまアリーナ(前橋市)で開かれた第37回関東中学校インドアソフトテニス大会では、三森さんは女子団体に出場し、第3位に入賞しました。

小学校1年生の時にソフトテニスを始めたという三森さんは、フォアのストローク(利き腕側でのプレー)が得意で、練習を積み重ねて力をつけています。三森さんは「支えてくれている人に感謝して、みんなに勇気を与えたり、感動してもらえるようなプレーをしたい。これからも一生懸命頑張り、テニスを続けていきたいです」と笑顔で話してくれました。「日本一」を目指して、三森さんのさらなる活躍が期待されます。